



## 2024年を振り返って

市議会の様子を「通信」で報告するとともに、市民要望の実現を指してきました。

### 補聴器購入助成制度2年目

市民団体「住みよい掛川をつくる市民連絡会」の請願が21年の9月定例会で趣旨採択され、昨年6月にできた制度です。2年目の今年も186人と利用が続いています。他市と比べて所得制限が緩く、40才からの利用も可能で、買った後のメンテナンスにもつながる良い制度になりました。認知症予防にもなり、医療・介護費の削減につながるという市の判断を引き出すまで、何度も一般質問で取り上げました。

### 带状疱疹ワクチン助成

23年の9月定例会で請願・陳情が採択され、今年の4月から水ぼうそうも含め制度ができました。利用者は864人！ワクチンの価格が高いため効果があるのかわかっていてもなかなか手が出ず、感染した後々まで辛い思いをする方が多い带状疱疹。医療費の削減にもつながることを訴えました。

持病があつてリスクの高い私も利用させてもらいました。来年度から国が定期接種に踏み切るようですが助成額などの詳細によっては自治体の独自加算を要望しています。

### 高齢者公共交通利用助成券 (一人当たり5千円分/年)

免許返納時に一回だけ一万円支給された助成券を、免許のない方は継続して、もともと持たない方や高齢者のみ世帯へも利用範囲が広がられました。制度をお知らせし、代理の申請のお手伝いもさせてもらいました。しかし、バスの便が悪いところだと5千円ではタクシー代の一回分にも満たなくて、焼け石に水だという声も聞きます。公共交通の地域格差がある中で、移動の権利を保障する仕組みが待たれています。

良い制度ができれば市民に喜ばれ利用される。職員も市民に喜んでもらえることが何よりのやりがいです。子どもの医療費の無償化も子育て世代にとっても喜ばれました。市民の声を汲んで何ができるか前向きに取り組むまちにしていきたいです。

## 企業献金でゆがむ政治

### 企業団体献金は公然たる政策買収のシステム

「何で安くもない危険な原発にしがみつくのかわからない」と言われますが、自民党「国民政治協会」への献金額と関連事業の受注額を見れば、企業団体献金が政治をゆがめ、政策がお金で買収されていることが良くわかります。

電力会社の自民党への献金はずば抜けて多く、見返り支出も大きい。だから企業団体献金は廃止しないといけないし、企業・財界も自民党もこれに抵抗するわけです。

お金で動く政治を、国民の声で動く政治に転換させることが求められています。



この他、訪問介護報酬下げの撤回と再改定を求める請願審議により、訪問介護の危機が認識され、意見書も提出されました。又私も一般質問で取り上げた、フリースクールの担当窓口ができ、小中学校の給食費の値上げ分は3年連続で交付金で補填され、実質値上げが見送られるなど、行政も市民の声を無視することはできません。



ヤツデの蜜を吸うメジロ

小中学校の給食費無償化など実現できなかった要望がかなうように、来年も皆さんと一緒にがんばります。